

## +1 (プラスワン)



## 「主われを試す」

牧師 横山順一

ちよつと悔い改めて四十歳の時以来の健康診断に行きました。健診であっても、事前調査の用紙を提出せねばなりません。素行の悪い私ですが、隠してはならんと、すべてを書きました。今は亡き両親や祖父母たちの病歴に始まって、一日どれくらい吸うか、飲むか。これからどうするか・・・。

正直、そこまで書かせる必要があるか疑問に思いましたけど、今さら偽っても仕方ないと腹を括ったのです。

ところが案の定、その用紙に対する質問も、指導も何もありませんでした。そして規定どおり、X線検査だの血液検査だのを機械的順繰りに回って終了です。

てやんでい、こちとら十六年ぶりの健診なんだぞ！（それがどうしたですが）と少々腹立たしい思いを抱きました。が、哀しいかな、朝食抜きで怒る元気もなく、それより早く飯を、ということでもス・バーガーに駆け込んだ次第。

献血が趣味のワタクシ、二ヶ月

に一度はセンターに行きます。そこで毎度事前の調査項目を見ながら医者に問われるのです。

「ほお、大腸がんなさったんですね。」

「何年のことですか？」

「どこを切りましたか？」

「薬は飲んでますか？」

私は問われるまま答えます。と

言うより答えるしかありません。

そして幸い抗がん剤も、放射線も

使用することなく五年を経過し、

当時のかかりつけの医師より全快

の宣言を頂き、今後「献血して良

いですよ」と許可を得たこと、そ

れが二年前の出来事だと。

がんになるまでに通算六十四回

の献血を行っていた私でしたが、

がんのおかげで五年間ストップを

強いられました。

許可が出てすぐ再開し、現在七

十八回となりました。つまり二年

間で十四回献血したのです・・・。

ここまで話して、ようやく医師

は口を開きます。

「それはよろしかったですね！今

日もよろしく願います。」

って、そういう事情を私は既に

十四回話して来たのですぞ。

もちろん、あちらの必要はよく分かっていきます。既往症について聞かざるを得ないのは当然です。

でも、どうにかならんのでしょ

うか、大ちゃん？梅田でも三宮で

も繰返し聞かれる形式的質問。

にしては、今般の健診の事前調

査は一体何のため？

そう言えば、入院した時も、看

護師さんたちに何度も同じ話をし

たのをうんざり思い出します。

それはうれしい会話ではないの

です。家族の誰が何の病気だった

とか、どれくらい飲むのだから、

普通他人には言いたくない秘密で

あり、恥部でさえあります。

おお神よ、私は何度み前に「さ

んげ」せねばならないのですか？

多分神は言うのでしょうか、「何度で

も」と。

過去および現在の極めて優れた

「個人情報」を問われることは、

時に拷問に近いと思います。拒否

できないだけに。

せめてすべての病院で使える共

通カードのようなものはできない

ものか。秋から導入されるマイナ

ンバー制度に反対しつつ、呻吟し

ます。